

早稲田大学 基幹/創造/先進理工学部 化学 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	120分(志望学部・学系・学科により、物理・化学・生物から2科目選択)
特徴・その他	例年通りで大問3題に各設問であることは変わらないが、計算問題が増えたことで、焦ってしまった受験生が多かったのではないかと判断する。『難化』とは言い難いが、受験生の大変さは倍増したことは明らかである。目新しい問題はほぼなく、問題演習をしっかりとしていれば、解答時間(2科目で120分であるから、単純計算で1科目60分)ギリギリであるかもしれないが、焦ることなく解答できたはずである。

〔大問別講評〕

番号	出題内容・コメント
〔Ⅰ〕	例年通りの小問10題である。(1)では電子軌道について触れているが、問題をよく読めば、電子配置の問題である。(3)では状態の変化が分かっていると解答できなかつたはずである。『0℃の氷が0℃の水になる』ときも熱量の変化があることをしっかりと把握できていたであろうか。(5)の燃料電池のエネルギー変換効率の問題は物理っぽい問題に見えるが、実は近年では頻出の問題であるので、日頃の演習ができていれば、問題はないはずである。その他の設問は単純な計算と知識でカバーできるはずだ。
〔Ⅱ〕	例年大問〔Ⅱ〕は無機化学系の出題が多い様子であるが、今回はアレニウスの式に関する出題であった。反応速度、化学平衡、ルシャトリエの原理がセットになるが、この問題についても、近年では頻出の反応速度に関する出題である。
〔Ⅲ〕	アルコールの構造決定、油脂に関する出題である。いずれも“特別に難しい”はなく、日々の演習ができていれば、難なく解答できたはずだ。